

横浜市感染症発生動向調査報告 11月

《今月のトピックス》

- 感染性胃腸炎の報告が増加しており、今シーズンも市内からノロウイルスGⅡ.17型が検出されています。
- 咽頭結膜熱、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎などの報告が多くなっています。

全数把握の対象

【11月期に報告された全数把握疾患】

細菌性赤痢	1件	急性脳炎	1件
腸管出血性大腸菌感染症	8件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
E型肝炎	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件
デング熱	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	8件
レジオネラ症	3件	水痘(入院例に限る)	2件
アメーバ赤痢	5件	梅毒	6件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2件		

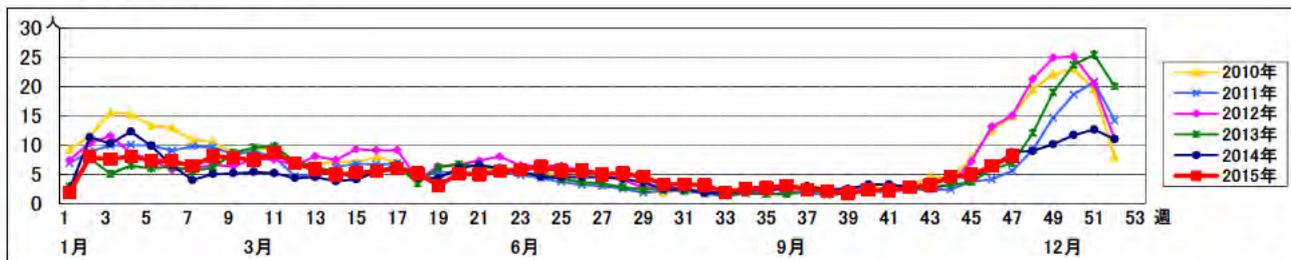
- 1 **細菌性赤痢**: *Shigella sonnei*(D群)の報告が1件あり、渡航先(インド)での感染が推定されています。
- 2 **腸管出血性大腸菌感染症**: 海外での感染事例がありました。海外においても動物との接触や肉の摂取など、十分に気をつける必要があります。
- 3 **E型肝炎**: 1件の報告があり、原因は不明でした。国内での感染は、多くが生肉や内臓の喫食に関連しており、それらの喫食の際には十分加熱することが大切です。
- 4 **デング熱**: 1件の報告があり、海外渡航歴(インドネシア)がありました。
- 5 **レジオネラ症**: 肺炎型3件の報告がありましたが、感染経路等は現在調査中です。
- 6 **アメーバ赤痢**: 5件の報告があり、1件は国内での同性間性的接触による感染、2件は国内での感染で感染経路不明、1件は中国での経口感染、1件は感染経路感染地域等不明でした。
- 7 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**: 2件の報告がありましたが、院内集団感染等の報告はありませんでした。
- 8 **急性脳炎**: 1件の乳児の報告がありました。病原体検索中です。
- 9 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**: 1件の80歳代の報告があり、感染経路等不明でした。
- 10 **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**: 無症状病原体保有者1件(国内での同性間性的接触による感染)、AIDS1件(感染経路感染地域等不明)の報告がありました。
- 11 **侵襲性肺炎球菌感染症**: 幼児1件、成人7件の報告がありました。幼児例では予防接種歴が1回(詳細不明)有りましたが、成人例では予防接種歴が確認できませんでした。
- 12 **水痘(入院例に限る)**: 成人の届出が2件あり、どちらも臨床診断例でした。
- 13 **梅毒**: 6件の報告(早期顕症梅毒Ⅰ期3件、早期顕症梅毒Ⅱ期2件、無症候期1件)の報告があり、すべて国内感染例でした。感染経路では、異性間性的接触3件、同性間性的接触1件、性的接触(詳細不明)1件、感染経路感染地域等不明1件でした。

定点把握の対象

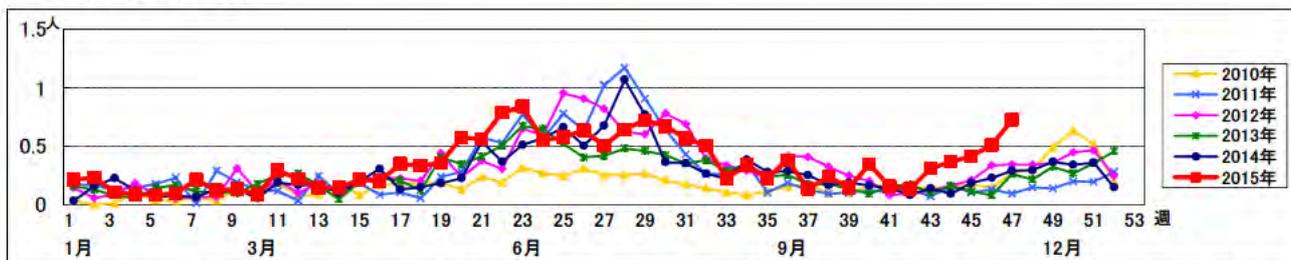
- 1 **感染性胃腸炎**: 第47週は市全体で定点あたり8.12と増加傾向です。区別では都筑区で既に20.50と警報発令基準値(定点あたり20.00)を上回っており注意が必要です。今シーズンは、いままでノロウイルスの主流のタイプであったGⅡ.4にかわり、GⅡ.17のノロウイルスの流行が危惧されていることから、厚生労働省が注意喚起しています。市内でも、昨シーズンは2015年1月頃から、いままで多く検出されていたGⅡ.4にかわり、GⅡ.17が検出されるようになりました。今シーズンもまだ全体の報告数は少ないものの、GⅡ.17が検出されています。GⅡ.17はノロウイルス迅速診断検査キットでの検出感度が低いことが報告されて

平成27年 週一月日対応表	
第44週	10月26日～11月 1日
第45週	11月 2日～11月 8日
第46週	11月 9日～11月15日
第47週	11月16日～11月22日

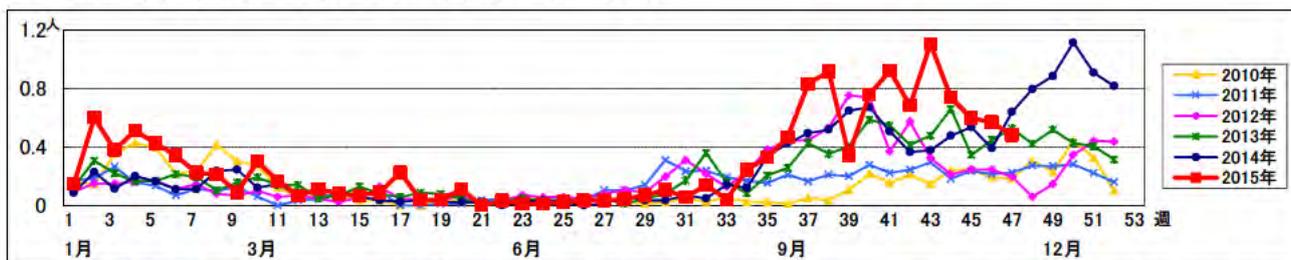
おり、注意が必要です。



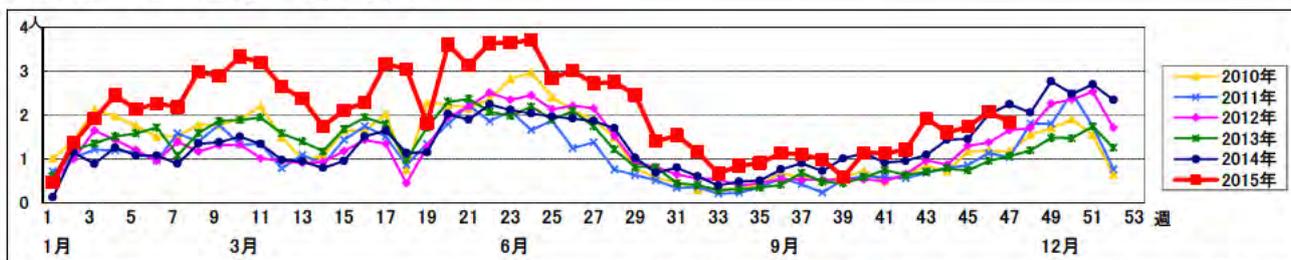
2 咽頭結膜熱:第47週は市全体で定点あたり0.73と増加傾向です。この時期では2010年以降最も報告が多くなっています。区別では磯子区で11.50と警報発令基準値(定点あたり3.00)を大きく上回っており、注意が必要です。



3 RSウイルス感染症:第47週は市全体で定点あたり0.48と、今年最も多かった第43週1.10より減少しましたが、まだ例年に比べて多い水準で推移しています。



4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎:第47週は市全体で定点あたり1.83と増加傾向です。例年年末にかけて増加するので注意が必要です。



5 インフルエンザ:第47週は市全体で定点あたり0.18と落ち着いています。ただ、学級閉鎖も報告されており、早めの予防接種が重要です。

6 性感染症:10月は、性器クラミジア感染症は男性が29件、女性が30件でした。性器ヘルペス感染症は男性が1件、女性が4件です。尖圭コンジローマは男性3件、女性が2件でした。淋菌感染症は男性が7件、女性が1件でした。

7 基幹定点週報:マイコプラズマ肺炎は第44週1.25、第45週1.25、第46週3.68、第47週1.50と、報告が多い状態が続いています。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)が第45週~47週まで1件ずつ報告されています。細菌性髄膜炎が第45週に1件、第46週に1件報告されています。無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

8 基幹定点月報:10月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症8件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症1件の報告がありました。薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

<ウイルス検査>

11月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点41件、基幹定点9件、眼科定点2件でした。

12月10日現在、ウイルス分離11株と各種ウイルス遺伝子22件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(11月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ	R S 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱 *
アデノ 2型		1			2
アデノ 3型					1
アデノ 4型		2			
アデノ NT	1	1			
インフルエンザ AH1pdm09型			5		
インフルエンザ AH3		1			
パラインフルエンザ 1型	1	1			
パラインフルエンザ 2型	1				
パラインフルエンザ 3型	1	4			
RS		3		2	
ライノ		1			
コクサッキー A2型	1				
コクサッキー A9型		1			
ヒトコロナ OC43型	2	1			
合計	7	13	5	2	3

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数、*:アデノ感染症を含む、NT:型未同定

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

11月の感染性胃腸炎は、基幹定点から5件、その他から18件で、赤痢菌(*S. sonnei*)が1件、腸管出血性大腸菌(O55:H+, O26:H21、O145:H-, O146:H-, O157:H7)が12件、サルモネラ(*S. Braenderup*、*S. Enteritidis*)が2件検出されました。腸管出血性大腸菌のうち2株(O157:H7)はニュージーランドへの渡航者から検出され、赤痢菌はアメリカ、イタリア、エジプト、インドへの渡航者から検出されました。

その他の感染症は小児科定点から7件、基幹定点から5件、その他から72件でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(11月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	11月			2015年1月～11月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
赤痢菌		1			2	4
腸管出血性大腸菌			12		1	77
腸管毒素原性大腸菌					1	
チフス菌						1
パラチフスA菌					6	5
サルモネラ		2			60	3
カンピロバクター						2
コレラ菌						1
不検出	0	2	6	2	26	22

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	11月			2015年1月～11月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌						
T1				3		6
T4	2			7		
T6				1		
T12				2		
T28				2		3
T B3264				2		1
型別不能	2		1	20		4
B群溶血性レンサ球菌	1			1		2
G群溶血性レンサ球菌						5
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌					10	40
バンコマイシン耐性腸球菌					1	2
<i>Legionella pneumophila</i>			1			8
インフルエンザ菌						12
肺炎球菌		3	4	1	4	82
<i>Neisseria meningitidis</i>						2
黄色ブドウ球菌	2			2		1
結核菌			2			157
緑膿菌			53			53
百日咳					2	3
その他		2	2		16	44
不検出	0	0	9	8	2	52

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 微生物検査研究課 細菌担当 】